【アブストラクト集】

8月21日(日)

13:00 – 13:10 寺薗 淳也 (実行委員長、会津大学)

　　　　　　　　はじめに

13:10 – 13:50　○高木 浩一 (岩手大学)

　　　　　　　　宇宙教育と連携したポスト3.11 型学習の構築と実践　 ※特別講演（32 分＋8 分）

3.11東日本大震災以降、エネルギー環境学習や、持続可能な社会構築に対する学習の考え方が変わった。エネルギー学習では、リスクスキルや放射線学習、また持続可能な社会構築のための学習でも、防災の視点や共創型の手法の重要性が増した。本講演では、JAXAおよびYACとの連携で実施した、震災復興を意識した、持続可能な社会構築の人材育成のための学習やイベント、被災地支援、学習教材の開発などを中心に述べる。

(座長：嶺重 慎)

13:50 – 14:02 寺薗 淳也 (会津大学)

　　　　　　　　月探査情報ステーションの新ステージ　〜大規模リニューアルの効果、ユーザー動向の把握〜

本年3月、月と月・惑星探査のポータルサイト「月探査情報ステーション」は大規模なリニューアルを果たした。その結果、いろいろなツールを駆使することでユーザー動向の把握がより詳細に行えることになった。ここではそのようなユーザー動向・属性把握を通じ、この分野にどのような人が興味を持っているのかを探り、今後の月・惑星探査アウトリーチの参考としていく。

14:02 – 14:14 亀谷 和久 (国立天文台)

　　　　　　　　世界とつながる科学ライブショー

科学ライブショー「ユニバース」では開演以来20年にわたって世界各所の天文台等との中継による天体観測やゲストトークを実施してきた。講演では、各地の人とつながり科学に親しむ事例としてこれらを紹介したい。

14:14 – 14:26 大江 尚子 (星と宙の工房 TeruTeruZa)

　　　　　　　「宙（そら）のある生活」「動く星空布絵本」～天文クラフト・宇宙グッズによる天文解説の事例報告

企業での商品開発の経験を生かし、オリジナル宇宙グッズを使った天文解説、ハンドメイドの天文クラフト作品による星空案内、ワークショップによる新しい層への天文普及などの活動をしています。2年間の実施例と反響を報告します。

14:26 – 14:38 間瀬 康文 (特定非営利活動法人ギガスター)

　　　　　　　　超高精細星空再現装置の天文教育における活用

当法人では、星を直接ピンホール等で再現する星空再現装置（GIGASTAR）の開発と製造ならびに教育分野での活用を進めている。光る星座早見の手作り教材による各種ワークショップや、プラネタリウム内での天体望遠鏡による観察に対応したシステムの検証活動について報告する。

14:38 – 14:50 高畠 規子 (国立天文台)

　　　　　　 　「天文台のあるまち三鷹」のとりくみ

 「天文台のあるまち三鷹」にふさわしいまちづくりの拠点として，駅前中央商店街にオープンした”天文科学情報スペース”と，年々，規模を拡大しつつある「太陽系ウォーク」を中心に，天文台と三鷹市のとりくみについて紹介する。"

14:50 – 15:20 休憩・ポスタータイム

(座長：安藤 享平)

15:20 – 15:32 水野 孝雄 (元 東京学芸大学)

　　　　　　　　天体(星空)観望会支援団体/個人リストへの登録募集

登録の募集を再開します。前回の登録項目に「今後の観望会支援予定」を追加しました。この予定を示して、特定の支援者や特定の日付に観望会依頼が集中するのを避けられればと。また支援者が行う観望会の広報にもなるかと思います。

15:32 – 15:44 藤田 登起子 (国立天文台)

　　　　　　　　天文学者派遣プログラム「ふれあい天文学」

国立天文台は、天文学者が全国の小中学校へ出向いて授業を行う事業「ふれあい天文学」を2010年度より実施している。例年40名を超える天文学者が講師となって、太陽や月、星の誕生のしくみ、ブラックホールの不思議、太陽系を旅する宇宙旅行など、星や宇宙の話題を届けており、「ふれあい天文学」は子どもたちが直接天文学者の授業を受けられる貴重な機会となっている。今年で7年目をむかえ、ふれあい天文学の今まで行ってきた授業など、昨年度行った実施校アンケートの結果を交え紹介する。

15:44 – 15:56 若月 聡 (東京理科大学/東邦大学/日本大学)

　　　　　　　　理工系学生に観る幼児期児童期における天文体験のキャリア形成的意義

発表者等は東京理科大学の主要３キャンパスに於いて、天文分野の実習授業を担当している。それ等を履修する理学部・理工学部等学生の幼児期児童期における天文的体験は、進路選択や人財育成にとって契機となっていることが、調査により示された。

15:56 – 16:08 亀谷 光 (仙台市天文台)

　　　　　　　　月の満ち欠けにおける児童の空間認識の実態調査　‐小学校と天文台の連携による学習より‐

仙台市天文台では小学校と連携した「単元まるごと学習」を実施している。昨年度は6年生の月の満ち欠けの仕組みについての学習効果を検証した。また、結果を基に児童の空間認識の現状についても仮説を立て検証を行った。

16:08 – 16:20 宮下 和久 (長野県塩尻市立丘中学校)

　　　　　　　　自作の観測器具を用いた太陽の動きの観測から地球の公転のしくみをとらえる

　　　　　　　　〜継続的な追究を支えるための中学校の部活動（科学部天文班）の指導〜

部活動で観測を継続する中から生まれた疑問を、自分たちの考えたモデルを検証することにより、地球の公転のようす（軌道の形や運動）について調べてきた。生徒たちの追究の過程を、顧問の指導や助言の様子も含めて発表する。

16:20 – 16:32 高田 淑子 (宮城教育大学)

　　　　　　　　宮城教育大学インターネット望遠鏡のご紹介

初等教育では、天文分野観測実施率は3割を切る現状がある。義務教育の授業の中で天体観測を実施する一つの手段として宮教大ではインターネット望遠鏡を用いた天体観測の教材開発を実施している。教育分野における活動の報告を行う。

16:32 – 16:44 宮川 祐一 (仁愛大学)

　　　　　　　　天文教育に係る免許更新講座の実施報告　(仮題)

今年度8月に、教員免許状更新講習の１コマとして、「星と のコミュニケーション」と題した講座(6時間)を担当する。知識に関する室内での講義と、天体望遠鏡の 操作および星の観察に関する野外実習をその内容とする。受講者像や実際の講習の様子、および課題等を報告したいと考えている。

16:44 – 16:56 石田 光宏 (横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校)

　　　　　　　　横浜サイエンスフロンティア高校「課題研究」における天文分野の取組みⅡ

昨年度の年会で, 本校の「課題研究」における天文分野の取組みを紹介した. 本発表では, 生徒の興味・関心が高いテーマはどこかなど, 今までの活動から分かってきたことを報告する.

16:56 – 17:08 山田 隆文 (奈良県立青翔中学校・高等学校)

　　　　　　　　青翔高校における天文分野の探究活動

青翔高校では、生徒が班に分かれ、自ら設定したテーマに基づいて研究を行う「探究科学」という科目がある。本講では、天文分野の研究を行った生徒達の研究事例と生徒が研究を行う場合の問題点について論じる。

17:08 – 17:20 縣 秀彦 (国立天文台)

　　　　　　　　高等学校理科、総合基礎科目の新設は可能か？

高校理科の学習指導要領における教科の目的・内容を吟味した。その結果、科目横断的でかつ必修の理科科目を新設することが望ましいと考え、その具体的な内容を提案した。本研究成果を踏まえて、日本学術会議は提言を取りまとめ発表した。その後の中教審、文科省の対応や方針などを紹介し、次々回改訂時の総合的な理科必修科目の設置実現を構想する。

17:20 – 17:50 休憩・ポスタータイム

17:50 – 18:20 天文教育普及研究会　法人化に関する全体議論

18:20 – 19:50 天文教育普及研究会　運営委員会

8月22日(月)

(座長：亀谷 收)

09:00 – 09:12 飯塚 礼子 (日食情報センター/明星大学通信大学院)

　　　　　　　　系外惑星命名支援WGのまとめ

国際天文学連合 (IAU) による、太陽系外惑星系命名キャンペーンに日本から多くの方に参加いただけるように、IAU公式サイトに掲載された情報や、系外惑星への理解を深める情報を、日本語で提供し活動を続けてきました。この活動から見えてきた課題などを上げ、ご報告いたします。

09:12 – 09:24 臼田-佐藤 功美子 (国立天文台)

　　　　　　　　IAU 太陽系外惑星命名キャンペーンにおける日本語サポートの評価

2014 年〜2015年に、国際天文学連合 (IAU) による「太陽系外惑星命名キャンペーン(NameExoWorlds contest) 」が行われた。国内では、日本天文協議会・IAU 太陽系外惑星系命名支援WGが設立され、当会・系外惑星命名支援WGが主体となって日本語での情報提供を行った。キャンペーン終了後に実施したアンケートの結果より、日本語サポートについて考察する。

09:24 – 09:36 嶺重 慎 (京都大学)

　　　　　　　　日本手話WGの目的と活動

2016年初めに天文手話WG をたちあげました。その経緯と目的、活動内容、天文手話の具体例、課題、今後の展望（スケジュール）を、かいつまんでお話します。

09:36 – 09:48 斉藤 秀樹 (長野市立博物館)

　　　　　　　　日本中国の文献から探る超新星の明るさ予想

変光星観測の歴史的な歩みの中に、1054年に超新星爆発を起こしたとされるかに星雲がある。当時、昼間でもかなり明るくなったとされるこの超新星の記録が藤原定家の日記「明月記」および中国の文献「宋史」に残っている。これらの文献から、ごく大雑把に1054年の超新星爆発の光度曲線を予想した。

09:48 – 10:00 岩﨑 仁美 (仙台市天文台)

　　　　　　　　アンドロメダファイト　～カードゲームを用いた天文教育普及活動～

東北大学天文学教室の学生が中心となり開発した「アンドロメダファイト」という宇宙カードゲームについて、開発からワークショップ実施までの実践報告を行う。また、過去の実践結果と比較し今後のアンドロメダファイトの発展性について発表する。

10:00 – 10:12 加藤 恒彦 (国立天文台)

　　　　　　　　4次元デジタル宇宙ビューワーMitaka〜最新機能と今後の展望

Mitakaは、国立天文台4D2Uプロジェクトで開発している、天文学の最新の成果を見ることができるソフトウエアです。本発表では、Mitakaの概要、主なデータや機能、最近バージョンでの変更点、教育用途も視野に入れた今後の開発方針などについてお話します。

10:12 – 10:24 波田野 聡美 (国立天文台)

　　　　　　　　4次元デジタル宇宙ビューワーMitakaの天文教育への利用

国立天文台天文情報センターは、4D2Uプロジェクトが開発したソフトウエア『Mitaka』の上映と普及の業務を担っている。本発表では、これまでに行ってきたMitakaによる天文教育の取り組み、および新規または計画中の事業について発表する。

10:24 – 10:54 ○高橋 真理子 (星空工房アルリシャ)

　　　　　　　　病院がプラネタリウム―ホンモノの星空が見られない人に届ける星空 ※特別講演（24 分＋6 分）

「病院がプラネタリウム」は、星空工房アルリシャと星つむぎの村の協働プロジェクトで、主に長期入院している子どもたちや難病の方たちを対象に、星空や宇宙を届ける事業です。その実践と今後の展望についてお話します。

10:54 – 11:09 ポスター紹介(各講演時間1分)

11:09 – 12:20 昼休み・集合写真撮影・ポスタータイム・支部会

(座長：寺薗 淳也)　特別セッション

12:20 – 12:50 ○笠井 香代子 (宮城教育大学)

　　　　　　　　宇宙をテーマにした理科実験教室と気仙沼への展開 ※特別講演（24 分＋6 分）

仙台市天文台や気仙沼地域を会場として実施している「スペースラボ」は、宇宙をキーワードとして、天文、物理、生物、化学などの幅広い分野が関わる理科実験教室です。気仙沼への展開を含め、2009年からの活動について紹介します。

12:50 – 13:30 ○柴田 晋平 (山形大学)、佐々木 祥子 (大船渡市)、 岡渕 富悦 (宙詠みサークル・朔)

　　　　　　　　大船渡市での天文教育活動　星のソムリエ講座 ※特別講演（32 分＋8 分）

大船渡市およびその周辺地域において、地域文化の活性化の一つの試みとして星のソムリエ講座の開催と地域で星空を楽しむ活動を進めたので報告します。

13:30 – 13:42 安藤 享平 (郡山市ふれあい科学館)

 東日本大震災から現在までの郡山市ふれあい科学館での活動 〜原子力災害を乗り越え天文教育で福島県を元気にする〜

東日本大震災後の原子力災害は、屋外活動の制限などを受け、あらゆる教育活動に大きな変化をもたらしました。その状況下での天体観望会の実施状況、福島県を「限界線」が通り抜けた2012年の金環日食での全県に向けた活動など、震災後5年間の活動状況を紹介します。

13:42 – 13:54 田中 慎悟 (加古川総合文化センター)

 こども☆ひかりプロジェクトの紹介 －東日本大震災支援－

東日本大震災を機に、被災地の子どもたちに笑顔を届けようと、2011年から始まったプロジェクトです。垣根を越えて結集した全国のミュージアムによるプロジェクトのこれまで、そしてこれからを紹介します。

13:54 – 14:30 テーマディスカッション 「今後、私たちにできること(仮題)」

14:30 – 15:00 休憩・ポスタータイム

(座長：高田 淑子)

15:00 – 15:12 松本 直記 (慶應義塾高等学校)

 第18回日本天文学会ジュニアセッションにおけるアンケート調査

学会における高校生セッションの嚆矢として日本天文学会ジュニアセッションは2000年に開始され先の天文学会年会で17年目、第18回を数えるに至った。参加者に対しアンケート調査を行い、参加者の現状の把握を試みた。会場では今後のジュニアセッションのあるべき姿について意見をお聞きしたい。

15:12 – 15:24 船越 浩海 (生涯学習センターハートピア安八・天文台/プラネタリウム)

 ハートピア安八天文台での小中学生天文研究指導の現場から

ハートピア安八天文台では、ジュニア天文倶楽部と称した、児童生徒対象の天文研究を行う天文クラブを運営している。この指導現場での、理論や思惑通りに進まない研究指導事例を紹介する。

15:24 – 15:36 三戸 洋之 (東京大学木曽観測所)

 高校生向け天文学実習「銀河学校」

「銀河学校」は、1998年から東京大学木曽観測所で行われている3泊4日の合宿型天文学実習で、これまでに全国から約500名の高校生が参加した。その目的には、研究者の育成のほか、科学に関心を持つ人材の育成がある。

15:36 – 15:48 楠 絵莉子 (ISAS/JAXA, 東京大学)

 「君が作る宇宙ミッション」における宇宙教育活動の取り組み

宇宙科学研究所・宇宙教育センター主催の「君が作る宇宙ミッション」は、今年で15回目を迎えた高校生向けの合宿型体験学習プログラムであり、主に大学院生が運営及び指導を行っている。その活動状況と、参加高校生の進路調査に基づく波及効果について紹介する。

15:48 – 16:00 服部 誠 (東北大学)

 高校生のための天文学者体験企画「もし天」について

「もし天」は、正式名称「もしも君が杜の都で天文学者になったら。。。」の略称で2011年の初開催から数えて今年度で６回目を迎える、高校生のための天文学者体験企画です。初年度より東北大学理学部天文学教室と仙台市天文台の共同主催の形で実施してきています。過去に国立天文台主催で開催されていた「君天」を母体に立ち上げ、仙台独自の要素を取り入れて、今では全国の宇宙好き高校生の間に知れ渡る企画にまで育ってきました。本講演では、「もし天」立ち上げの経緯、これまでの実施状況、私が感じている課題、についてご紹介します。

16:00 – 16:30 ○田中 幹人 (東北大学) ※特別講演（24 分＋6 分）

 大学教育におけるアクティブラーニング型の天文教育

本講演では東北大学の学士過程において取り組んでいるアクティブラーニング型の天文教育について、具体的な事例を交えながらご紹介します。

16:30 – 18:00 天文教育普及研究会　総会

18:00 – 20:00 情報交換会

8月23日(火)

(座長：荒木田 英禎)

09:40 – 10:10 ○遊佐 徹 (大崎生涯学習センター)

 大崎生涯学習センターにおける学校との連携事業について　　※特別講演（24 分＋6 分）

10:10 – 10:22 坂江 隆志 (埼玉県立浦和西高等学校)

 自作分光器による太陽の物理観測

全長1.2m、重量約7キロの手作り分光器であるが、小型の割に高い波長分解能を有する。スリットスキャンによるヘリオグラム、ドップラーグラム、マグネトグラムといった物理観測への応用例を報告する。

10:22 – 10:34 直井 雅文 (埼玉県立浦和高等学校)

 簡易自作分光器を使った高校における課題研究の充実

天体の分光観測は様々な物理量を得ることのできる有効な観測法であるが，既製品や特注品の分光器は高価である。そこで，透過型回折格子を利用した簡易分光器を自作して，部活動等での研究に使えるように工夫してきたので，ここで紹介する。

10:34 – 10:46 大西 浩次 (長野工業高等専門学校)

 重力波で天文教育

2015年9月に重力波が検出された。中間質量ブラックホールの連星合体でという予想外の現象であった。いま、日本でKAGRAが稼動開始のとき、重力波をどう伝え・展開するかについて、発見までの経過を振り返りながら、天文教育としての複数のアプローチを紹介する。

10:46 – 10:58 伊藤 芳春 (聖和学園高等学校)

 ６０ｍｍ天体望遠鏡で見える６０天体

仙台市天文台創立60周年を祝し，60mm望遠鏡で見える天体を，天文教育的視点で６０天体選びましたので紹介します。

10:58 – 12:00 昼休み・ポスタータイム

(座長：津村 耕司)

12:00 – 12:12 亀谷 收 (国立天文台水沢VLBI観測所)

　　　　　　　　国立天文台水沢VLBI観測所における広報活動と木村榮記念館

国立天文台水沢VLBI観測所での広報活動のここ数年の取り組みについて報告する。8月20日実施の特別公開（いわて銀河フェスタ2016）や、来年設置50年を迎える木村榮記念館の状況、2019年に迎える設立120周年に向けての取組み等を紹介する。

12:12 – 12:24 坂部 健太 (京都産業大学)

　　　　　　　　神山天文台サポートチーム　～5年間の活動とこれからの展望～

神山天文台サポートチームは、京都産業大学神山天文台の活性化を目的とする学生団体です。主に、天文台を拠点に観望会や天文教室などを通して学内外で活動しています。本発表では我々の活動と製作物の紹介、学内観望会から得られた現在の課題と今後の展望を報告します。

12:24 – 12:36 西村 昌能

　　　　　　 　花山天文台観測実習の14年

著者が在籍していた京都府立洛東高校は、この１４年間にわたって、近隣にある京都大学大附属花山天文台で太陽の高分散分光観測実習を行ってきた。太陽活動の１周期分を超える期間の単独の学校と大学天文台との教育連携について報告をしたい。

12:36 – 13:06 ○土佐 誠 (仙台市天文台)

　　　　　　　　仙台市天文台の移転整備と活動　　　※特別講演（24 分＋6 分）

仙台市天文台が2008年に仙台市郊外に移転・開館して８年が過ぎました。振り返って、移転整備計画、PFI方式による民営化と特別目的会社、開館の準備とミッションの策定、運営・日常の活動などで気づいたことを紹介します。

13:06 – 13:40 全体議論

13:40 – 13:50 縣 秀彦 (天文教育普及研究会会長、国立天文台)

 おわりに

14:00 – 仙台市天文台 ツアー

【ポスター発表】

1. 縣 秀彦 (国立天文台)

 国際天文学連合・国際普及室（IAU・OAO）の活動紹介

平成24年度に国際天文学連合（IAU）と国立天文台が協定書を交わし、国立天文台三鷹に設置することとなったIAUの国際普及室（OAO）は、平成26年度からは国立天文台天文情報センターに設置されています。本ポスター発表では、OAOが実施した国際光年2015「宇宙からの光」事業と、太陽系外惑星命名事業等の成果を紹介するとともに、今後の国際活動の課題について提案し、皆さんからの協力を募ります。

2. Lina Canas (IAU国際普及室/国立天文台)、嶺重 慎 (京都大学)、臼田-佐藤 功美子 (国立天文台/IAU国際普及室)、柴田 幸子 (国立天文台/IAU国際普及室)

 ユニバーサル天文ワークショップ – 国際協力と支援

今年9月24日〜26日に、国立天文台で「第３回ユニバーサルデザイン（UD）天文教育研究会」が開催される。参加者各自が実践できる教材の開発のため、ワークショップを行う。また、近隣諸国をお呼びし、日本の教材を見てもらい、各国・地域でどのように活動を持続・発展させていくか、国際協力と支援の特別セッションを設ける。

"

3. 福澄 孝博 (北海道大学)

 生涯学習施設支援ＷＧ纏めの年度突入！〜現状報告とこれから〜

生涯学習施設支援ＷＧは3年目を迎え、いよいよ取り纏めの年度となった。調査が難しく作業が少しずつしか進んでいないのが実情ではあるが、最終報告を見据えた形が見えてきた。現状を紹介し、皆さんとの情報共有とし、纏めに向けての議論をしたい。

4. 鴈野 重之 (九州産業大学)

 天文教育論文アーカイブ創設への道

天文教育普及に関する知見を共有し，読み継ぐ上で，学術論文として出版することは重要である．天文教育論文アーカイブＷＧでは，過去に出版された天文教育普及論文のリスト化を進めており，ここでは現時点でのリストを紹介する．

5. 水野 孝雄 (元 東京学芸大学)

 天体(星空)観望会支援団体/個人リストへの登録募集

登録の募集を再開します。前回の登録項目に「今後の観望会支援予定」を追加しました。この予定を示して、特定の支援者や特定の日付に観望会依頼が集中するのを避けられればと。また支援者が行う観望会の広報にもなるかと思います。

6. 大西 浩次 (長野工業高等専門学校)

 入試問題から見える天文教育の問題

平成28年度都立高校入試「理科」の地学（天文）の問題で、致命的な欠陥のある問題が出題された。この件を中心に、問題の瑕疵を指摘し、このような瑕疵がある問題が造られた原因を、天文教育の問題、及び、教育システムの問題として指摘したい。

7. 坂江 隆志 (埼玉県立浦和西高等学校)

 太陽の高分散高分解能スペクトル教材の制作

自作分光器でカラー撮像した355nmから875nmにわたるスペクトル画像約80枚をつなぎ合わせ、おもな吸収線の元素名と波長、1nmごとの波長目盛りを記入したパノラマ写真を制作した。この教材の活用方法について議論する。

8. 穂積 正人 (兵庫県立舞子高等学校)

 Mitakaによる、３D「宇宙旅行」の上映

手作りのスクリーンとともに移動上映ができるため、校内・商業施設・コミュニティセンターなどで、上映を行いました。解説や操作は、主に「星空案内人」の資格を持った生徒が行い、年齢を問わず馴染んでもらえるよう原稿作成・読み方・操作等に工夫をしました。

9. 津村 耕司 (東北大学)

 持ち運び可能なMitakaの立体上映システムの構築

持ち運び可能なMitakaの立体上映システムを導入したのでそれについて紹介する

10. 松村 雅文 (香川大学)

 プラネタリウムを用いた天文教育：視点の移動を目指して

近年、デジタル式プラネタリウムや Mitaka など、新たな装置を用いた天文教育の展開が可能になってきている。学校教育の視点から、どのような用い方が有効であるのか、本研究では考察を始めたので、その概要を報告する。

11. 間瀬 康文 (特定非営利活動法人ギガスター)

 超高精細星空再現装置の天文教育における活用

当法人では、星を直接ピンホール等で再現する星空再現装置（GIGASTAR）の開発と製造ならびに教育分野での活用を進めている。光る星座早見の手作り教材による各種ワークショップや、プラネタリウム内での天体望遠鏡による観察に対応したシステムの検証活動について報告する。

12. 大江 尚子 (星と宙の工房 TeruTeruZa)

 天文クラフト・宇宙グッズによる星空案内・天文解説の実施例の報告

オリジナルデザインの宇宙グッズやハンドメイドの天文クラフト作品を使用した星空案内・天文解説について、2年間の実施例を報告します。グッズや作品の実物を手に取ってご覧いただけるようにパネルに取り付けます。

13. 宮下 和久 (長野県塩尻市立丘中学校)

 金環日食観測記念日時計の制作・設置と地域との連携

長野県塩尻市では、2012年の金環日食に際して、日食めがねによる限界線観測に地域を挙げて取り組み、丘中学校も全校生徒が観測に参加した。日食観測を記念する日時計を制作し、学校教育と社会教育の双方に活かす試みについて発表する。

14. 富谷 弘、伊藤 芳春 (聖和学園高等学校)

 「モチモチの木」の月物語

切り絵で有名な滝平二郎のモチモチの木（初版本）の絵の中の月は，間違いが指摘されて変更されたという経緯があります。児童書と天文について話題提供します。

15. 寺薗 淳也 (会津大学)

 月探査情報ステーションについて

月探査情報ステーションは、1998年11月に解説された、月と月・惑星探査を中心とした情報を公開する普及啓発サイトである。本年3月に、創設以来最大規模となるリニューアルを実施し、名実ともに全く新しいサイトとして生まれ変わった。ポスターでは本サイトの紹介、現状などを告知する。

16. 株本訓久、山道千賀子 (武庫川女子大学)

 日本における古代インドの宇宙観の普及

本研究の目的は、所謂古代インドの宇宙観の原典とされるN.ミューラーの図が、日本で普及していった過程を明らかにすることにある。今回は図を最初に見た日本人は誰か、また図がはじめて天文書で紹介されたのは何時かについて報告する。